

道徳科通信

全学年 第2号
令和4年5月23日
研究部

3年生道徳の授業を紹介します！

主題名：世界平和と人類愛 テーマ：いのち、先人、国際

教材名：『命のトランジットビザ』

……本文より抜粋……



1933年、ドイツの首相となったヒトラーによる独裁政治が始まると、支配下となったヨーロッパでは、ユダヤ人への迫害が激しさを増していきました。1940年7月、リトアニアの日本領事館の外交官だった杉原千畝は、ある決断に迫られます。ナチスの迫害を受け、ポーランドから逃げてきたユダヤ人たちが、日本のトランジットビザ（通過ビザ）を求め、領事館に殺到したのです。ユダヤ人がナチスの迫害から逃れるには、日本の通過ビザを取得し、安全な国へ出国するという方法しかありませんでした。

杉原は「ビザを出してもいいか？」と日本の外務省に連絡をとりましたが、返事は「条件を満たさない者へのビザ発給は許さない」というものでした。

杉原は苦悩の末、外務省の命令にそむき、命の危機がせまっているユダヤ人に対し、「外交官の職を失ってもかまわない。人道主義と博愛の精神をとろう。」と決断したのです。その後、受け入れ国を南米キュラソー（入国ビザが不要）とする「命のビザ」を手書きで朝から晩まで一時の休みもなく書き続けました。ソ連の侵襲による領事館閉鎖が近づき、杉原と家族は同年9月5日、ベルリン行きの国際列車に乗りました。汽車が走り出すぎりぎりまで、杉原は渡航証明を書き続けました。杉原千畝が発給したビザや渡航証明書は2100枚以上にのぼり、6千人以上の人間の命を救ったと言われています。

もし、隣の席の友達が助けを求めてきたらどうする？

- ・当然助けるでしょ
- ・助けるのが当たり前
- ・助けないという選択肢がない



- ・内容によるかも…
- ・助けられるなら助けていたいけど、無理のない程度に…

杉原がビザを発行する場合と、しない場合でそれぞれの立場の人にどんな影響が出る？



	する	しない
ユダヤ人	・命が助かる ・逃げれる	・命を落とすかもしれない
日本政府	・外交関係が悪くなる	・ドイツ、イタリアとの協力関係を深められる
杉原 (その家族)	・職を失う ・命を狙われる ・達成感を得る	・自分の心が傷つく ・後悔する

これらを踏まえて、自分が杉原千畝だったらビザを発行する？

- ・発行したいけど、家族のことを考えると…
- ・せんといけんとは思いますが、色んなことを考えると、「する」という決断はできない。

する:13
しない:5



杉原がビザを発行すると決断できたのはなぜ？

- ・救えるのは自分しかいないし、救えずに後悔したくなかったから
- ・救いたいし、放っておけない
- ・自分の気持ち・選択に、家族も納得してくれたから
- ・助けない選択肢は、もともとなかった

